

●表11 「故人」のライフエンドの希望・意思の伝達の有無

		文書等で 伝えられた	文書ではない が、口頭で伝 えられた	伝えられて いない	わからない	無回答
(n=3932)	a) 病状に関する 正確な説明や告知	2.6%	37.7%	51.9%	7.7%	0.6%
(n=3918)	b) 病状の変化に 対応して、希望 する医療上の対 処方法 (症状の緩和、苦 痛の除去、延命 措置の判断等)	1.8%	33.2%	55.6%	9.4%	0.9%
(n=3912)	c) 希望する療養 場所 (自宅、病院や介 護施設、福祉施 設等)	1.3%	30.9%	57.5%	10.3%	1.1%
(n=3907)	d) 希望するライ フエンドの迎え 方 (会いたい人、食 べたい食事、読 みたい本等)	1.0%	19.5%	66.6%	12.9%	1.2%
(n=3898)	e) 判断能力が低 下した場合に希 望する後見人	1.0%	14.1%	68.9%	16.0%	1.4%

## ⑦実際に故人からの意思伝達は 少ない

「故人」のライフエンドの希望・意思の伝達の有無

終末医療、終末介護の場面であるライフエンドディング・ステージでは「本人の意思」が最も重要視されるが、実際に「本人」から明確な形で事前に意思表示されていないケースが5〜6割。「示された」にしても多くは「口

頭」に留まっている。(表11)

その結果どういふことになるかと言えば、最終的な意思決定は家族が行うことが多い、というのが実状である。

超高齢社会になり80歳以上で亡くなる人が多い、ということは終末期を認知症状態で迎える人も多くなつてきており、そうした段階では本人の意思表示ができなくなるケースが多い。

2000年に高齢化等で判断能力の低下する人を保護する成年後見制度が発足して、事前に任意後見人を指定す

## ⑧生前の財産関係の意思表示も なされていないケースが多数

「故人」の財産等の相続や処分方法に関する  
意思や意向の伝達

前項7によると終末期の延命処置をどうするか等についての本人の意思表示があまりないことから、家族が意思決定をせざるを得ない精神的負担が増加している。

財産等についても同様で、本人の生前意思表示(遺言)がない事例が多く、家族間の財産争いが増える傾向にある。

「相続」が「争統」と擲擄される事例が増加する傾向にあり、場合により葬式の場が「死者の弔いの場」ではなく、「遺族が反目する場」になっている事

ることが可能となったが、「任意後見」を利用する人は少ない。しかし認知症等で意思表示不可能な人が増えたことで「法定後見」の対象者は急増している。その場合多くは、同居等の家族が後見人に指定される事例が多いのだが、後見人が被後見人の財産を勝手に処分する等で家族間紛争を招き、摘発される事例も急増している。

財産の多少にかかわらず後の家族間紛争を予防する意味では任意後見制度の普及が必要となる。

例も少なくない。(表12)

冠婚葬祭互助会の会員は約2割程度と想定されるが、会員であると伝達されているのは14・7%である。ここから死亡会員の1割弱程度は利用されなままになり、幽霊会員が蓄積増加する原因になっているのではないかと推測される。

遺言については富裕層のケースについては信託銀行等も熱心であるが、そうでない大部分の層においては支援・サポートは十分ではない。

●表 12 「故人」の財産等の相続や処分方法に関する意思や意向の伝達

		文書等で伝えられた	文書ではないが、口頭で伝えられた	伝えられていない	該当するものはなかった、わからない
(n=3932)	a) 現金や預貯金等（通帳・キャッシュカード、クレジットカード等）	5.4%	25.6%	53.7%	15.3%
(n=3892)	b) 有価証券やその他の金融資産	4.4%	15.5%	43.4%	36.7%
(n=3905)	c) 不動産（住宅・土地）	6.3%	21.0%	42.6%	30.1%
(n=3883)	d) 貴金属、骨董品、自動車等の有形資産	1.9%	12.6%	44.9%	40.7%
(n=3887)	e) 口座自動引落しや定期的な振込等	2.5%	18.0%	52.2%	27.3%
(n=3858)	f) 借入金やローン等の負債	1.1%	7.0%	33.0%	58.9%
(n=3891)	g) 生命保険（少額短期保険を含む）、医療保険	3.2%	18.3%	42.9%	35.6%
(n=3881)	h) 冠婚葬祭互助会等の葬儀に関する事前契約	2.5%	12.2%	40.3%	45.0%
(n=3900)	i) 年金（公的年金、私的年金）	4.1%	23.9%	50.8%	21.2%
(n=3204)	j) その他の財産・負債	0.7%	3.4%	28.3%	67.6%

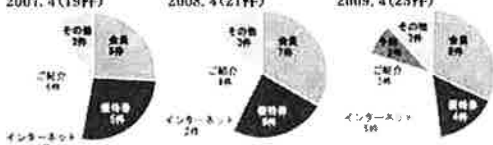
## 会社の未来が「見える」色地図と分析データ。

管理だけじゃない。分析の後「どうするか」。エクセルと連動し、グラフで見えてくるものは？！

### 会員管理システム + ゼンリン地図全庁データベース

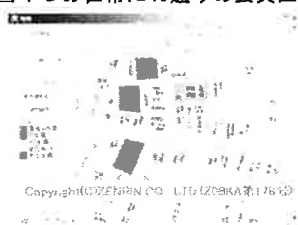
Windows 7 / Xp 対応

葬儀申込理由別分析表(調査2007.4 2008.4 2009.4)



- ① 月次入会区別数をワンタッチで集計でき、グラフ化が可能。
- ② 3年前・2年前・1年前の集計で、営業活動を強化する項目が一目瞭然。
- ③ 会員数と葬儀施行件数の関係も必然的に見えてくる。

### □ 1つの世帯に40通りの会員区分

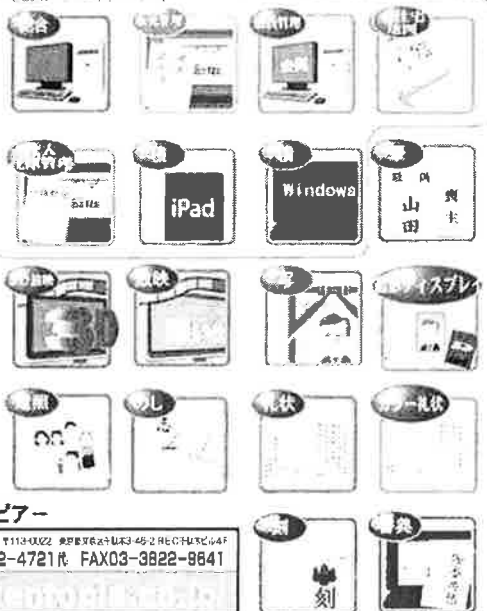


### — 葬祭業のクラウドシステムならケントピア —

ケントピア株式会社 TEL03-3822-4721代 FAX03-3822-9841

— 他にも葬祭業専用システムがございます。 —

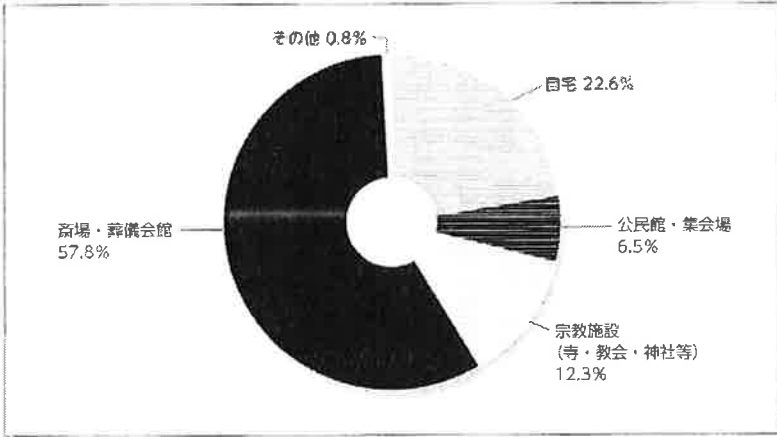
【運動タイプ/単独タイプ】



●表 13 「故人」の葬儀が行われた場所

		自宅	公民館・集会場	宗教施設(寺・教会・神社等)	斎場・葬儀会館
(n=3928)	合計	22.6%	6.5%	12.3%	57.8%
(n=70)	20代	12.9%	10.0%	10.0%	67.1%
(n=228)	30代	19.7%	5.3%	5.3%	69.7%
(n=512)	40代	22.5%	6.1%	13.7%	57.2%
(n=721)	50代	19.6%	7.1%	11.0%	62.1%
(n=1153)	60代	20.6%	6.9%	12.9%	58.4%
(n=1244)	70代~	27.4%	6.2%	13.4%	52.3%

●図 13 「故人」の葬儀が行われた場所



## 9 斎場(葬儀会館)葬の現況は 7割超か

「故人」の葬儀の場所

このデータは直近の近親者の葬儀が行われた場所であり、調査時点の葬儀の場所ではない。約10年程度の期間の平均値である。孫世代が最近の葬儀を体験していることが多いのでそのデータを見ると「斎場(葬儀会館)での葬

儀」は20代が67・1%、30代が69・7%となっている。(表13、図13) このことから2011年時点での「斎場(葬儀会館)での葬儀」は7割を超え75~80%前後と推定できる。自宅葬は10~15%程度、寺等の宗教

施設は10%程度、公民館・集会場は5%程度と推定される。

しかし葬式の斎場(葬儀会館)化の傾向はこのまま進むとはかぎらない。家族葬等の近親者での葬式が増加して市民権を獲得したことに伴い、自宅葬や寺葬の見直しも今後は増える可能性があるからだ。

装置としての祭壇のウエイトが低下することで自宅葬は容易になるだろうし、寺でも本堂での葬儀が増えることで、本堂の仏壇・荘厳を用いての葬儀が増加すると思われる。だからといって葬儀社に依頼しない葬儀が増加するのではない。葬式全体で設営のウエイトが減少すると思われる。

## 10 実際は緩やかな変化

「故人」の葬儀はどう行われたか

先に示した「6. 自分の葬儀への希望」と比べて、実際の葬儀はそれほど急激に変化していない。むしろ三分化していると思われる。(図14) 「①葬儀の内容」については、「A故人や家族等の意思を尊重して実施する葬儀」が38・4%(自分の葬儀では76・4%、以下同)、「B慣習や習俗に従って行われた葬儀」が44・3%(7・7%)、「どちらともいえない」が17・3%(16・0%)となっている。

今後の傾向としては「故人、家族の意思尊重が増える、増えた」と言えるが、「伝統、風習尊重型が減少する、した」とはいえ、なくなるわけではない。中間を含めた3つの軸の間で増減していくと思われる。

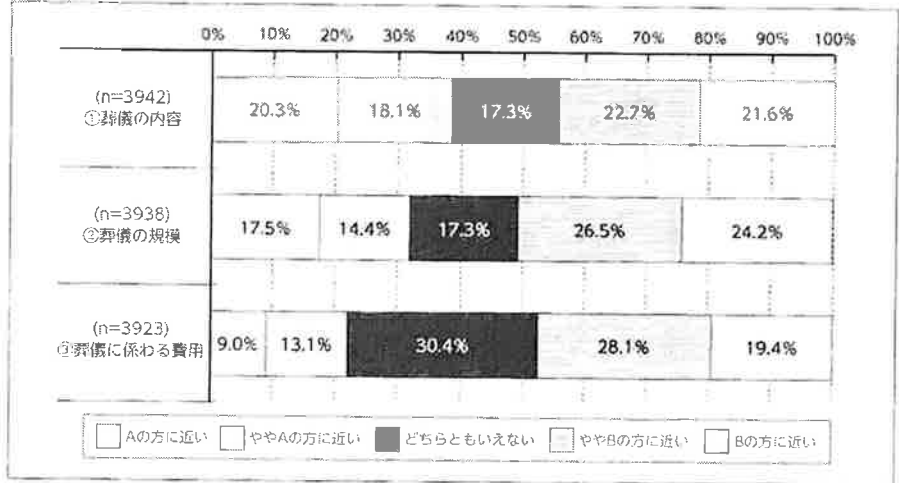
これは「②葬儀の規模」にも言えることである。

「B故人や家族等に関係する人達に広く案内して実施する葬儀」が50・7%(7・5%)、「A家族や親しい友人達のみで実施する葬儀」が31・9%(64・9%)、「どちらともいえない」が17・3%(19・8%)となっている。ただし、これも現時点とは多少相違する。

またデータとしては「やや」も加えた数なので、この中間的な内容の葬儀が実際にはもう一つ大きな勢力となつ

て一般に言えることは、バブル崩壊以降は小型の葬儀が増えており、会葬者

●図 14 「故人」の葬儀はどう行われたか



数は減少の傾向が著しい。だが60～80年代の高度経済成長期からバブル期までの30年間で異変値とも言える。現時点でも50年代までの葬儀規模よりは大きい。

「③葬儀費用」については「B内容を重視し、必要な支出を行う」が47・5%（9・3%）、「A内容を犠牲にしても、できるだけ費用を抑える」が22・1%（59・3%）、「どちらともいえない」が30・4%（31・5%）となっている。

変化は、全体としては緩やかに進行しており、二極化ではなく、3分化する方向で進んでいると言えよう。

## ①「葬送の多様化」は緩やかに進行して市民権を獲得

### 「故人」の遺骨の扱い方

現在の日本の火葬率は99・9%である。葬（土葬）は実際はわずかである。から、法律的には許容されている埋

（注）厚生労働省「平成21（2009）

年度衛生行政報告例」では、死体総数115万6461、うち埋葬332（0・03%）、火葬115万6129（99・97%）となっている。

あくまで火葬が標準であり、それはこのたびの東日本大震災で、宮城県での仮埋葬が一時的処理にすぎず、家族の希望ですぐ掘り返され、火葬されたことでも証明された。

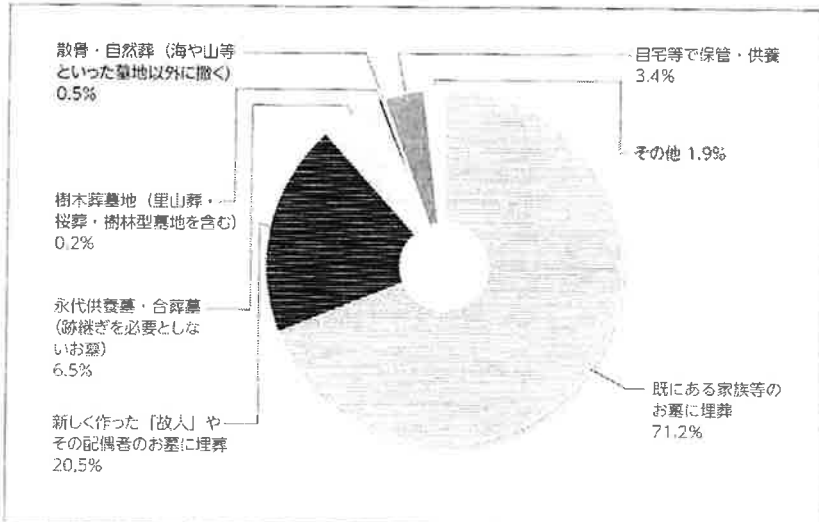
ハカの問題は今や遺骨をどう扱うかの問題となっている。

7割はすでに定まった墓地・納骨堂を保有しているの

これから推計するに（死者数を年間110万人と想定）、永代供養墓（合葬式墓地・合葬墓）は年間7万件程度、樹木葬（樹林墓地、桜葬等）は2千件程度、散骨（自然葬）が5千件程度行われていて、今後少しずつ増加していくと思われる。

引き取り手のない遺体（遺骨）も年間3万件ほどあり、家族等の手元で保管される遺骨も年間4万件程度であると推定できるだろう。

●図 15 「故人」の遺骨の取り扱い方



●表 16 「故人」の葬儀についての納得感

		納得している	やや納得している	あまり納得していない	納得していない	葬祭業者は利用していない
(n=3943)	a) 葬儀の内容について	47.3%	42.1%	8.5%	2.1%	0.0%
(n=3931)	b) 葬儀の規模(会葬者の範囲等)について	48.1%	42.7%	6.8%	2.4%	0.0%
(n=3928)	c) 葬儀にかかった費用の金額水準について	33.7%	44.2%	16.3%	5.8%	0.0%
(n=3919)	d) 葬儀にかかった費用の透明性について	31.4%	41.4%	19.8%	7.4%	0.0%
(n=3923)	e) 葬祭業者から受けた事前の説明について	30.6%	46.7%	17.4%	4.2%	1.1%
(n=3931)	f) 葬祭業者の担当者の態度や振る舞いについて	36.1%	48.0%	11.6%	3.2%	1.2%

ここで納得感が低いのは費用についてである。透明性については27.2%が納得していない。葬祭業者にとっては、費用の透明化を図ることが、現状での大きな課題であることも明確になった。

挙すると「葬儀の規模」が90.8%、「葬儀の費用」が77.9%、「葬儀費用の透明性」が72.8%、「葬祭業者からの事前説明」が77.3%、「担当者の態度・振る舞い」が84.1%、となっている。

テレビや雑誌媒体では問題視されることの多い葬式であるが、近親者の葬儀を体験した約8割程度が「納得している」「やや納得している」(以下、合

わせて「ほぼ納得」と回答した。(表16)

「葬儀の内容」については89.4%が「ほぼ納得」、以下、「ほぼ納得」を列

## ⑫ 近親者の葬儀体験者は7割以上が「ほぼ納得」

「故人」の葬儀についての納得感

## ⑬ 葬祭業者の情報は身近なところから

葬祭業者の情報入手方法

葬祭業者の情報入手については、本調査では都市部と郡部と分けて集計していないため、その差が明らかではない。(複数回答)

喪主世代の中心をなすであろう60代を中心に見てみると、情報化社会と言われるが、「インターネットで調べて」1.3%、「葬祭業者等のコールセンターで聞いて」3.3%、「チラシや広告、タウンページ等を見て」4.4%と外からの情報は多くない。葬祭業者選びは身近な情報が多い。「故人が生前から決めていた」が15.2%、「故人や家族等が事前に相談していた」が15.9%、「あなたが以前から知っていた」が32.5%、「あなたの家族・親族等からの紹介」19.7%、「宗教者(僧・神主)から」19.7%、「宗教学者から(多くは檀那寺と想定される)」が7.9%、「知人・友人から」が5.5%、「自治会・町内会等」が6.2%となっている。

将来はインターネット関係からの情報も増えると思われるが、今のところそれほど影響力は見られない。(表17)

●表 17 葬祭業者の情報入手方法 (複数回答)

		「故人」が生前から決めた	「故人」や家族等が相談していた	あなたが以前から知っていた	あなたの家族・親族等からの紹介	宗教者(僧・神主)から	知人・友人からの紹介	自治会・町内会等近所の人からの紹介	「故人」が入院していた病院等からの紹介	行政の相談窓口での紹介	市民団体からの紹介	インターネットで調べて	葬祭業者等のコールセンターで聞いて	チラシや広告、タウンページ等を見て	その他	葬祭業者は利用していない	わからない	無回答
(n=3943)	合計	12.2%	15.8%	27.5%	21.2%	7.9%	5.5%	6.2%	9.5%	1.2%	0.2%	1.9%	2.8%	3.9%	5.7%	1.2%	5.4%	0.3%
(n=70)	20代	5.7%	20.0%	7.1%	24.3%	2.9%	5.7%	2.9%	5.7%	2.9%	0.0%	2.9%	1.4%	2.9%	5.7%	0.0%	27.1%	0.0%
(n=228)	30代	8.8%	14.9%	11.0%	28.3%	5.3%	4.8%	2.6%	8.8%	1.3%	0.4%	2.2%	0.4%	3.9%	4.8%	0.9%	14.5%	0.0%
(n=512)	40代	8.6%	16.6%	16.4%	24.8%	7.6%	5.5%	5.1%	9.4%	1.0%	0.4%	3.1%	0.8%	3.3%	5.9%	2.1%	9.0%	0.0%
(n=721)	50代	11.5%	13.3%	24.3%	23.3%	5.0%	6.7%	6.0%	9.0%	1.2%	0.3%	1.9%	1.8%	3.7%	5.3%	0.6%	6.2%	0.0%
(n=1155)	60代	15.2%	15.9%	32.5%	19.7%	8.0%	4.8%	6.0%	9.7%	1.0%	0.0%	1.3%	3.3%	4.4%	4.7%	1.0%	3.5%	0.3%
(n=1257)	70代~	12.2%	16.7%	33.5%	18.5%	10.5%	5.6%	7.8%	10.1%	1.4%	0.3%	1.8%	4.3%	3.7%	6.9%	1.4%	2.4%	0.6%